

挑む

モノづくり ヒトづくり



前田鉄工所社長

前田 基樹氏

自動車のトランスミッション(変速機)やエンジン部品などを手がける前田鉄工所(名古屋市中川区)は、事業基盤の強化を進めている。このほど電気自動車(EV)向けモーターシヤフト(出力軸)の増産や農業機械向け新製品の加工に乗り出した。自動車業界は電動化対応が本格化。サプライチェーン(供給網)を支える企業も変化に対応するため、磨いてきた技術

力の応用先を探す。前田基樹社長に目指す姿を聞いた。(名古屋・川口拓洋)

「車載モーターの基幹部品であるモーターシヤフトの生産能力を引き上げました。」

「2022年末に加工機を導入し、23年3月にロボットが稼働した。4月から本格的に自動化した状態で生産を始めた。月産7000個をこなせる体制が整った。」

「既存のエンジンやトランスミッション向け部品でも自動化を進めています。」

「ロボットは旋盤などの加工機への部品の着脱やバリ取りなどで利用している。仕事量が増えても人員を増やさずに対応できる。安定した精度も期待でき、効率化した部分が成果となって表れ始めている。」

「新たに農機向け部品の

生産自動化、ロボ`使うスキル、養う

加工を受注しました。

「トラクターのトランスミッション向け歯車を加工する。工程は複雑で数も少ないものの、単価が期待できる。主力にはなり得ないが、社員の給料を上げるためにも必要な仕事だ。事業基盤の強化が目的だ。」

「自動化を進める中で、今後、人の役割はどう変わりますか。」

「量産品の製造は自動化される。人にはロボットなどをうまく活用するための技術が求められる。ロボットの研修に参加させたり、新たなスキルを身に付けさせたりしている。また検査と品質保証も重要な役割になる。大手企業の間では少し高価でも、品質や信頼性のある物を買う傾向が出てきている。」

「少子高齢化により人材の確保が困難になっていきます。」

「23年4月入社の新卒採用枠に応募が20人程度あり、そのうち2人を採用できた。当社は製造業であり、加工業。コミュニケーション力よりも誠実で忍耐力がある人を求めている。理系である必要もない。良い人材ではなく当社に合った人材を採用している。」

モノづくり 自動車部品生産の現場